



今月の主な目次

- フロストシーディングによる草地造成
- 繁殖管理における定時授精の効果
- 営業所からのお便り(7)
旭川営業所からの紹介：一手間加えたバンカーサイロの詰め方
- 雪たねきっさ室（野菜編PART II）

時の話題

－平成22年を振り返って－

日頃より弊社製品・商品をご愛顧頂き、厚く御礼申し上げます。

毎年感じることはありませんが、まさに激動の時代の渦中にあると実感されていることと察します。

昨年の乳製品の値上の反動から、生乳の需要減退と加工製品の在庫増加が発生しました。生乳生産量は前年並を確保したものの、プール乳価は実質値下げとなり、昨年より厳しい状況での経営を余儀なくされていることと拝察致します。

この夏、国内各地で記録的な猛暑となり、生乳生産量は激減し、加工原料乳向け生乳が不足と報じられており、短期に情勢が大きく変化する傾向が益々強まっていると感じております。

世界的に見てもロシアでの熱波・旱魃、中国の大雨・洪水、そして季節が逆になる南半球では南米での寒波と、異常気象が見られました。北海道でも春先の低温、記憶に新しい猛暑もあり、地球的な規模で私たちを取巻く環境が変わってきていると思わせる状況です。

4月20日に九州で発生した口蹄疫の影響は甚大でありました。被害にあわれました生産者及び関係者に対し、対策に尽力されたことに心から敬意を表するとともに、改めてお見舞い申し上げます。10年前には北海道でも発生しましたが、今回は畜産農家および関係各位の防疫体制の徹底を図り北海道での発生はありませんでした。今後ともに防疫には今一度見直すとともに徹底をお願いいたします。

平成22年10-12月の配合飼料価格は据え置きで決定されましたが、ロシアの穀物禁輸措置は来年の穀物収穫後まで継続される可能性が高いことから、現在穀物相場はじわじわ上昇してきております。このことは、3年前の穀物価格上昇時と状況が酷似しており、当時はオーストラリアの旱魃が原因で穀物価格は上昇し、かつてない水準で配合飼料価格が上昇したことは記憶

に新しいと思います。

このような環境は今後も私たちの農業経営に大きな影響を与え続けるものであり、私たちがどのように反応し、どのような行動をするのかが、今後更に重要であると考えます。私達が携わる農業、酪農・畜産は、土や水そして太陽の光など自然の恵みを受けて営まれている産業ですので、その恩恵を最大限生かすためには、酪農・畜産の原理・原則である「土一草一牛」の循環の支障になっている問題を解決すべく取り組むことを提案致します。

土づくりの基本は家畜が排泄する堆肥を畑地に還元することから始まります。高騰する化学肥料を節減し、土壤に住む微生物の力を拝借した経営が求められます。

草づくりの基本は草地改良から始まります。永年草地から収穫される作物は収穫量が天候の影響を受け易いばかりか、家畜の嗜好性も低く、牛が喜んで食べてくれるための工夫が必要です。

牛づくりの基本は管理から始まります。何故乳房炎等の病気になり、折角生産した生乳が出荷できないことになるのか、原因を追求するためにも、今現在どのような管理を実施しているかを再認識し、何を実行していくべきか計画し、取組み、効果をしっかり確認することを継続していくことが肝要であると確信しております。

弊社は創業者である黒澤西藏翁が提唱した「健土健民」を企業理念とし、牧草・飼料作物種子を地域に適合した品種の育成とお客様のニーズに応えた商品・生産技術の開発を行なっております。弊社営業マンをお客様の問題解決の良きパートナーとご指名頂き、変化する時代に何を実行していくか、ご相談頂けますようお願い申し上げます。

今後も本誌「雪たねニュース」を通して皆様のお役に立てる新しい技術情報や、製・商品のご紹介など、より一層の充実を図って参りますので引き続きご愛読くださいますようお願い申し上げます。

平成23年も家族共々輝かしい新春を迎えられますことを役員一同切に願っております。

(取締役北海道統括支店長 橋場 義孝)